

日本気象学会 2018 年度春季大会

出展・リクルートブース開設・協賛・協力企業・団体等一覧

今大会の開催にあたり，以下の企業・団体からご出展・リクルートブースご開設・ご協賛・ご協力を頂きました（2018年3月14日現在；50音順）。厚く御礼申し上げます。（*は会場内に併設されるブースにて展示を行う予定の企業・団体です。+は会場内に併設されるリクルートブースを設ける予定の企業・団体です。）

<出展・リクルートブース開設・協賛>

株式会社アイ・アール・システム*

株式会社朝倉書店

いであ株式会社+

英弘精機株式会社*+

オフィス気象キャスター株式会社+

株式会社気象工学研究所+

気象情報通信株式会社+

クレイ・ジャパン・インク

サイバネットシステム株式会社*

全日本空輸株式会社

ダイヤモンドエアサービス株式会社

株式会社日本エレクトロニクス・インスルメント

日本海洋事業株式会社+

日本気象株式会社+

一般財団法人日本気象協会*+

日本無線株式会社

株式会社ニューテック*

株式会社ハイク*

株式会社日立パワーソリューションズ*

株式会社プリード*

明星電気株式会社*

<協力>

一般社団法人つくば観光コンベンション協会

つくば市

日本気象学会 2018 年度春季大会

会期：2018年5月16日（水）～5月19日（土）

会場：つくば国際会議場

〒305-0032 茨城県つくば市竹園2-20-3 <https://www.epochal.or.jp/index.html>

大会実行委員会担当機関： 気象研究所

大会委員長： 隈 健一（気象研究所所長）

当日の会場への連絡先： 大会実行委員会事務局（つくば国際会議場小会議室301）

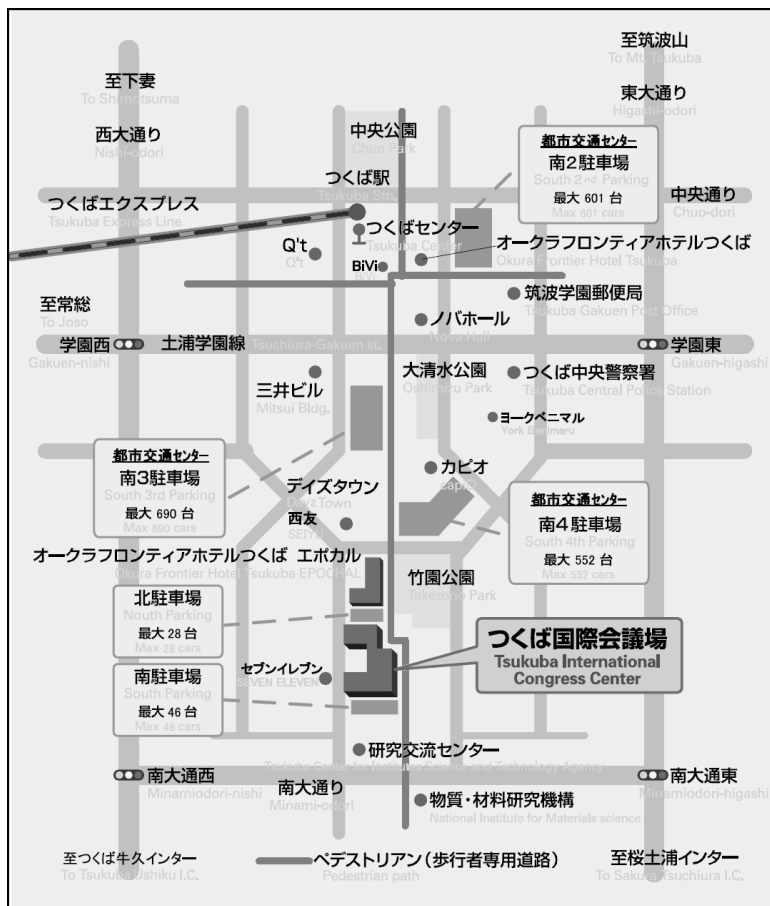
TEL 029-861-0601（大会期間中のみ有効）

※大会参加者への伝言は、受付付近の掲示板に掲示します。
取り次ぎはいたしませんのでご承知おきます。

交通の案内：

- TXつくば駅・つくばセンターまで
 - ・つくばエクスプレス(TX)：
「つくば」行きに乗車，終点「つくば駅」下車
 - ・JR常磐線：
「土浦駅」西口3番バスのりば，「ひたち野うしく駅」東口バスのりばより，「筑波大学中央」または「つくばセンター」行きバスに乗車，「つくばセンター」下車（ともに所要時間約25分）
 - ・高速バス：
東京駅八重洲口の高速バス2番のりばより「筑波大学」または「つくばセンター」行きに乗車，「つくばセンター」下車（所要時間約65分）。
羽田空港第1，第2各ターミナル1階到着ロビー13番のりばより，「つくばセンター」行きに乗車，終点「つくばセンター」下車（所要時間約80分）。
- TXつくば駅・つくばセンターからつくば国際会議場まで
ペDESTリアンデッキ（歩行者専用道路）に昇り，直進（徒歩約10分）。

会場案内図（つくば国際会議場提供）



大会行事予定

A会場 : 大会議室101 (1F) 総会・記念講演・シンポジウム : 大ホール (1F)
 B会場 : 大会議室102 (1F) 受付 : エントランスホール (1F)
 C会場 : 中会議室201 (2F) 大会事務局 : 小会議室301 (3F)
 D会場 : 中会議室202 (2F) 懇親会 : 大会議室101・102 (1F)
 ポスター会場 : 多目的ホール (1F)
 (企業展示会場・リクルートブース併設)

		A会場	B会場	C会場	D会場
5月 16日 (水)	09:30～ 11:45	中高緯度大気 (7, A101～A107)	降水システム I (7, B101～B107)	大気放射 (7, C101～C107)	大気力学 (7, D101～D107)
	11:45～ 12:45	ポスター・セッション (29, P101～P129)			
	13:45～ 17:30	気候システム I (11, A151～A161)	専門分科会 「多発する集中豪雨と 線状降水帯－特に 2017年の豪雨事例を 中心として－」 (14, B151～B164)	熱帯大気 I (13, C151～C163)	大気境界層 (11, D151～D161)
5月 17日 (木)	09:15～ 11:30	気候システム II (6, A201～A206)	降水システム II (7, B201～B207)	熱帯大気 II (7, C201～C207)	気象予報 I (7, D201～D207)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (29, P201～P229)			
	13:30～ 15:30	総会			
	15:40～ 17:50	学会賞, 藤原賞, 岸保・立平賞受賞記念講演			
	18:15～ 20:15	懇親会			
5月 18日 (金)	09:15～ 12:00	気候システム III (9, A301～A309)	降水システム III (8, B301～B308)	熱帯大気 III (9, C301～C309)	気象予報 II (8, D301～D308)
	12:00～ 13:00	ポスター・セッション (28, P301～P328)			
	14:00～ 17:30	シンポジウム「防災・減災のための観測・短時間予測技術の未来」			
5月 19日 (土)	09:15～ 11:30	気候システム IV (3, A401～A403)	降水システム IV (4, B401～B404)	観測手法 I (7, C401～C407)	気象予報 III (7, D401～D407)
		環境気象 (4, A404～A407)			
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (15, P401～P415) ジュニアセッション			
	13:30～ 17:15	公開気象講演会 「台風の強度～台風災 害の軽減に向けた航空 機観測～」	物質循環システム (9, B451～B459)	観測手法 II (9, C451～C459)	中層大気 (12, D451～D462)

発表件数 : 294件 (専門分科会14, 口頭発表179, ポスター101)

当大会予稿集に掲載された著作物については、以下の規程「日本気象学会の刊行物に掲載された著作物の利用について (http://www.metsoc.jp/teikan/MSJ_kitei_copyrightpolicy.pdf)」に準じます。

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは、〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1気象研究所予報研究部内 講演企画委員会

(E-mail: kouenkikaku2018s@mri-jma.go.jp) まで。

講演の方法

一般口頭発表・専門分科会

- ・ 一般口頭発表の講演 1 件あたりの持ち時間は 17 分 (講演 13 分・質疑 4 分) です。
- ・ 専門分科会の発表時間については世話人からの指示に従ってください。
- ・ 講演には PC プロジェクターを使用できます。
- ・ 講演にあたり、予め以下の点をご了承ください。
 - ✓ パソコンは各自で準備して下さい。会場にはプロジェクター、VGA ケーブルおよび HDMI-VGA 変換アダプタを準備します。VGA (ミニ D-sub15 ピン)、あるいは HDMI (フルサイズ) コネクタを装備した PC が使用できます。
 - ✓ セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。また接続が不安な場合は、セッション開始前に会場係に申し出て下さい。
 - ✓ 突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をとることがあります。携帯用メディアによるバックアップファ

イルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようにお願いします。

ポスター発表

- ・ 講演者はポスターに表題と著者名を明記して下さい。
- ・ ポスター発表の一人当たり使用可能面積は、縦 205.5 cm×横 85.5 cm 程度となっています (ただし、足元からパネルが立ち上がる点に注意)。
- ・ ポスターの掲示には画鋏を使用して下さい。画鋏は会場に用意します。
- ・ ポスターの掲示可能時間は以下の通りです。会場の都合上時間厳守でお願いします。
 - ✓ 第 1 日の発表者は 5 月 16 日 09:00~17:00
 - ✓ 第 2 日の発表者は 5 月 17 日 09:00~17:00
 - ✓ 第 3 日の発表者は 5 月 18 日 09:00~17:00
 - ✓ 第 4 日の発表者は 5 月 19 日 09:00~17:00
- ・ ポスター会場での機器の使用は、講演申し込み時に申し出ていたもの以外は原則として認められません。

保育施設の紹介について

大会期間中の会場近隣の保育施設として、次の施設を紹介します。

1. キッズハウスつくば

〒305-0051 茨城県つくば市二の宮1丁目24-8
パルシャスつくば1F 101号
Tel: 0120-38-8373
<http://www.kids-house.jp/>

つくばセンターバスターミナル4番乗り場より関東鉄道バス「学園南循環 (右回り, 左回りどちらでもよい)」に乗車し (乗車時間5分), 「二の宮一丁目」下車, バス進行方向へ徒歩約1分です。途中バス停の「国際会議場 (学会会場)」からは2つ目のバス停です。学会会場から徒歩の場合は約10分 (800m) となります。バスの本数が少ないので、確認して利用されることをお勧めします。

http://kantetsu.co.jp/bus/timetable_tsukuba.html

2. AiAi kids (あいあいキッズ)

〒305-0817 茨城県つくば市研究学園4-4-11
ハニユウ薬局研究学園店2階
Tel: 029-869-9705
<http://ai-ai-kids.com/index.html>
TX研究学園駅より徒歩10分

ただし、左記は情報提供のみであり、保育施設への申し込みは利用者個人で行って下さい。また、補助は保育支援ガイドライン (http://jinzai.metsoc.jp/files/childcare_support_guideline.pdf) に則りますので、補助申し込み以降の手続きは学会事務局にお問い合わせください。

大会実行委員会からのお知らせ

- ・ 大会実行委員会の窓口は事務局長・直江(hnaoe@mri-jma.go.jp)です。他の実行委員に個別に照会するのは極力、避けてください。
- ・ 前納受付者には大会参加票、ネームホルダー、大会ハンドブックの3点を事前に送付いたします。前納受付者は、懇親会追納などのご要望や、同封物の不備がない限り、大会当日、会場の受付にお立ち寄り頂く必要はありません。直

接、講演会場にお越しください。なお、大会参加中は、受付がお済みであることを明示するため、領収証を切り離れた大会参加票をネームホルダーに入れてご呈示ください。

- ・ 大会実行委員会が発行する大会参加費および懇親会費の各領収書は、税法上認められた実務上の証拠書類となる正式なものです。原則、これらを手書きの領収書に改めることは認めませんので、ご了承ください。

シンポジウム「防災・減災のための観測・短時間予測技術の未来」

日時：2018年5月18日（金）（大会第3日）14:00～17:30

会場：つくば国際会議場 大ホール（1F）

司会：斉藤 和雄（気象庁気象研究所）

※シンポジウムの聴講は無料です。一般の方も参加できます。

趣旨

集中豪雨や台風などによる災害は毎年のように発生している。地球温暖化と共に、現象の頻度や強度、発生場所の変化（北上）なども懸念されており、これら自然現象によって生じる災害への対策は喫緊の課題である。一方、近年の観測技術、予測技術、ICT技術の発展は目覚ましいものがあり、気象関連災害に対する防災・減災のための鍵となる技術として期待される。

国土交通省は平成27年1月に『新たなステージに対応した防災・減災のあり方』をとりまとめた。これを受けて、交通政策審議会気象分科会は、同年7月に「『新たなステージ』に対応した防災気象情報と観測・予測技術のあり方」を気象庁への提言としてとりまとめ、大きな気象災害をもたらす要因となっている「積乱雲」、「集中豪雨」、「台風」について、それぞれに関する観測・予測技術の現状と課題を確認し、最適な観測手段と技術向上に向けて取り組むべき方向性を示した。

本シンポジウムでは、線状降水帯などに代表される集中豪雨や台風に伴う大雨、それに伴う災害を主な対象とし、最も大きな被害をもたらす土砂災害の様相、10年程度先を見通したときに必要となる観測・予測技術及び災害情報の提供に関する技術について、専門家による講演と参加者全員による総合討論を通して、現状とその将来の方向性について議論を深めたい。

プログラム

1. 「豪雨に関する防災情報を支える観測・予測技術の現状」
小泉 耕（気象庁気象研究所）
2. 「防災のための次世代の観測技術」
鈴木 修（気象庁気象研究所）
3. 「次世代スーパーコンピュータとビッグデータが拓く未来の気象予測」
三好 建正（理化学研究所）
4. 「水災害発生過程と予測の必要性」
小池 俊雄（土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター）
5. 「災害情報の共有と利活用」
臼田 裕一郎（防災科学技術研究所 総合防災情報センター）

総合討論

総会

日時：大会第2日（5月17日）13:30～15:30

場所：大ホール（1F）

議事次第

1. 開会
2. 議長選出
3. 理事長挨拶
4. 2018年度日本気象学会賞授与
5. 2018年度藤原賞授与
6. 2018年度岸保・立平賞授与
7. 2017年気象集誌論文賞及びSOLA論文賞授与報告
8. 議事
- (1) 2017年度事業報告
- (2) 2017年度決算報告
- (3) 2017年度監査報告
- (4) 公益法人日本気象学会細則の一部改正について
- (5) 公益法人日本気象学会定款の一部改正について
- (6) 第39期名誉会員の推薦について
- (7) 第40期役員を選任について
9. 報告
- (1) 2018年度事業計画
- (2) 2018年度収支予算
- (3) その他

専門分科会の概要紹介

多発する集中豪雨と線状降水帯—特に2017年の豪雨事例を中心として—

日時：2017年5月16日（水）（大会第1日）13:45～17:30

場所：B会場

趣旨：2017年7月5日～6日に福岡県朝倉市や大分県日田

市などの九州北部地方で集中豪雨による甚大な被害が発生し、気象庁は「平成 29 年 7 月九州北部豪雨」と命名した。九州北部豪雨発生の前後にも島根県・新潟県・秋田県など各地で豪雨が頻発した。これらの豪雨発生の主要因の一つとして所謂「線状降水帯」の存在が指摘されているが、その発生環境場と形成機構、降水量の予測可能性、災害評価に資する豪雨の定量的表現法など依然として未解明の課題が山積している。本分科会では、特に 2017 年梅雨末期の豪雨事例を中心に、観測研究から、データ解析、データ同化、数値シミュレーションに至る様々な手法に基づいた、線状降水帯関連の気象学的研究

はもとより減災・防災関連の調査研究の話題提供も期待したい。また、今後も頻発が予想される豪雨災害の対策に資するための研究の方向性を会員と共に議論する。次代を担う大学院生など若手の発表も大いに歓迎する。

世話人: 竹見哲也(京都大学)、津口裕茂(気象研究所)、清野直子(気象研究所)、加藤亮平(防災科学技術研究所)、清水慎吾(防災科学技術研究所)、下瀬健一(防災科学技術研究所)、川野哲也(九州大学)、川村隆一(九州大学)

公開気象講演会のお知らせ

日時: 2018年5月19日(土)(大会第4日) 13:30~17:15

場所: つくば国際会議場 大会議場101(大会A会場)

テーマ: 台風の強度~台風災害の軽減に向けた航空機観測~

主催: 公益社団法人日本気象学会 教育と普及委員会

後援: 一般社団法人日本気象予報士会

趣旨: 日本気象学会2018年度春季大会の開催に合わせて、一般市民の方々に気象に関する最新の研究成果や関心の深い事柄について解説することを目的として公開気象講演会を開催します。今回は「台風の強度」について航空機を用いた取り組みをテーマとして取り上げます。台風は毎年のように大きな災害をもたらし、日本の風水害の大きな原因となっています。さらに地球温暖化に伴い台風がますます強くなることが予想され、日本における台風のリスクは増大しています。それにもかかわらず、台風の強度の推定値には誤差が大きく、また強度予測には十分な改善がみられません。これらの問題を解決し、将来、台風による災害のない安全な社会を作っていく

ためには、航空機を用いた台風の直接観測においてほかにはありません。今回の公開講演会では、台風の強度をどのように推定し、予報するのかについて最先端の技術を詳しくかつ分かりやすく説明し、航空機を用いて台風を直接観測することで上記の問題を解決していこうとする最近の取り組みを紹介します。航空機で超大型台風の眼に入ったときの、「天空の城ラピュタ」を彷彿とさせる壮大な眼の中の風景もお楽しみください。

テーマ及び講演者

趣旨説明 坪木和久(名大)

1. 台風の強度を測るには 中澤哲夫(気象研)

2. 台風の予報はいま? 伊藤耕介(琉球大)

3. 台風の観測機器 清水健作(明星電気)

4. 台風の航空機観測 山田広幸(琉球大)

問い合わせ先: 小田真祐子(教育と普及委員会)

TEL: 029-852-9162

E-mail: msj-ed_2018@metsoc.jp

ジュニアセッションのお知らせ

※下記の趣旨のため、多くの学会会員の皆様にご参加いただき、質疑やコメントをくださいますよう、宜しく願いいたします。

※ジュニアセッション発表者・見学者の参加は無料です。

日時: 2018年5月19日(土)(大会第4日) 11:30~12:30

場所: つくば国際会議場 多目的ホール(大会ポスター会場)

主催: 公益社団法人日本気象学会 教育と普及委員会・講演企画委員会

趣旨: 大気や気象に対する若い人たちの興味や探究心が高まることで、より豊かな社会の招来に繋がることを期待し、日本気象学会2018年度春季大会の開催に合わせて、高校・中学生世代を対象に「ジュニアセッション」を開催します。生徒たちが自ら行った気象や大気に関する調査・研究の成果を、専門家の前で発表体験し、意見交換することによって調査・研究を深めてもらうことを主な目的としています。多くの学会会員の皆様にご参加いただき、質疑やコメントをくださいますよう、宜しく願いいたします。

発表・見学の資格: 高等学校、高等専門学校生(1~3学年)

の生徒(新卒者含む)個人またはグループ。中学生の発表も可。発表者がいない学校の生徒、教諭、引率者も見学できます。

発表形態・発表内容: ポスターセッション形式。内容は気象・気候や大気についての生徒による調査・研究成果。詳細は日本気象学会ホームページ(<http://www.metsoc.jp/?p=9528>)をご覧ください。

参加特典:

- 発表者の全員に対し、「発表認定証」を発行します。
- 日本気象学会ホームページに発表者や発表要旨などを掲載し、顕彰します。
- 発表者は、専門家による質疑やコメントを通じて、研究の要領やヒントを得たり、また参加者間の交流を深めたりすることができます。
- 発表者・見学者・引率者は春季大会における各種セッション、シンポジウム、講演等を無料聴講できま

研究会のお知らせ

大会期間中とその前後に以下の研究会が予定されています。興味のある方はご自由にご参加下さい。

第49回メソ気象研究会

日時：2018年5月15日(火) (大会前日) 13:15~15:45

場所：気象庁講堂 (東京都千代田区大手町1-3-4)

コンピーナー：櫻井南海子, 下瀬健一, 加藤亮平 (防災科研)

テーマ：「雷研究の現状と今後の展望」

内容：2017年8月19日に首都圏で発生した雷雨による花火大会の事故など、雷による事故は後を絶ちません。気象庁の雷監視システム(LIDEN)による雷観測データが、2017年1月より公開されるようになりました。また、国交省の偏波レーダーデータ(XRAIN)も2015年10月よりDIASから学術向けに公開され、雷研究に有用なデータの取得が飛躍的に容易になりました。データ利用が可能になった今、雷研究の現状と今後の課題を整理する必要があります。そこで、今回のメソ気象研究会では、雷研究を行っている方に講演を依頼し、話題提供をしていただくことにしました。雷そのものを観測する技術開発をされてきた吉田智さん、雷を発生させる雷雲を観測する偏波レーダーの解析を行っている瀬瀬丈晴さん、雷雲内の雷をモデルで再現する技術開発をされている加藤雅也さん、そして現業(気象庁)の雷情報について加藤輝之さんにお話して頂きます。この研究会で、現在、国内では雷についてどこまで分かっている、何が問題なのか、海外の雷研究を参考にしつつ、将来どこへ目指すべきかを整理するきっかけになればと思っています。多くの方々のご参加と活発な議論をお願いいたします。

プログラム：

13:15-13:25 開会挨拶・趣旨説明

13:25-13:50「気象庁での雷関係プロダクト-LIDEN・雷ナウキャスト・発雷確率ガイダンスの概要について」
加藤輝之(気象庁)

13:50-14:15「Xバンド偏波レーダーを用いた夏季雷雲内部の降水粒子分布観測」 瀬瀬丈晴(情報通信研究機構)

14:15-14:40「雷3次元標定装置の発展とその応用」 吉田智(気象研)

14:40-15:05「雲解像モデルCReSSによる雷シミュレーション」 加藤雅也(名古屋大)

15:05-15:30「海外における雷研究の動向と防災科研における雷研究の取り組み」 櫻井南海子(防災科研)

15:30-15:45 総合討論

※発表タイトルは、予告なく変更する場合があります。

世話人：坪木和久(名大宇地研), 加藤輝之(気象庁), 小倉義光(東大大気海洋研)

連絡先：下瀬健一(防災科研)

E-mail : kshimose@bosai.go.jp

注意事項：受付にて名札をお受け取り下さい(トイレや自

販機等を利用する際に必要となります)。講堂での飲食はご遠慮ください。

第11回気象庁数値モデル研究会

日時：2018年5月15日(火) (大会前日) 16:00~18:30

場所：気象庁講堂 (東京都千代田区大手町1-3-4)

テーマ：「台風・集中豪雨の予測精度向上に向けた数値予報技術開発の方向性」

内容：数値予報は、日々の天気予報や防災気象情報の発表に必要な不可欠な基盤技術となっており、近年、集中豪雨や台風等による被害の相次ぐ発生や、IoT等の技術の進展による気象データの利用拡大等により、その予測精度向上への期待は益々高まっています。こうした状況のもと、気象庁では、数値予報モデルの飛躍的な精度向上を目指す取り組みを進めています。その一環として、大学等研究機関が持つ最新の研究成果や知見のより積極的な活用を図るため、大学等研究機関の専門家による「数値予報モデル開発懇談会」(会長：新野 宏 東京大学大気海洋研究所客員教授)を平成29年から開催しています。

今回の研究会では、気象庁側から現在検討を進めている今後10年程度を展望した数値予報モデル開発の考え方を紹介するとともに、研究コミュニティ側で実施している先端的な研究の現状を共有頂くことで、台風・集中豪雨予測を中心に今後の現業数値予報モデル開発及びこれに関連する研究のあるべき方向性について意見交換を行いたいと考えております。多くの方々のご参加と活発な議論をお願いいたします。

プログラム：

16:00-16:10 開会挨拶・趣旨説明

16:10-16:40「台風・集中豪雨予測に関する現業数値予報モデルの課題と技術開発の方向性」 本田有機(気象庁数値予報)

16:40-17:10「台風の予測精度向上に資する先端的研究の現状」 伊藤耕介(琉球大)

17:10-17:40「豪雨の予測精度向上に資する先端的研究の現状」 清水慎吾(防災科研)

17:40-18:30 総合討論

※以下のURLにも掲載しております。

<http://pfi.kishou.go.jp/>

連絡先：長谷川昌樹(気象庁企画)

E-mail : m-hasegawa@met.kishou.go.jp

注意事項：受付にて名札をお受け取り下さい(トイレや自販機等を利用する際に必要となります)。講堂での飲食はご遠慮ください。

第3回気象学史研究会

主催：気象学史研究連絡会

日時：2018年5月16日（水）（大会第1日）18:00～20:00

場所：中会議室 201（C会場）

テーマ：「日本での初期の数値天気予報」

内容：数値天気予報は、第二次世界大戦直後のアメリカ合衆国で研究開発が進展し、日本では1959年に気象庁の現業にとりいれられたことはよく知られています。しかし、日本で数値予報に関するどのような研究開発が進められてきたかはよく知られていないようです。そこで本会合では、現業開始以前の台風に関する数値予報の研究についての論考をまとめられた科学史家の有賀暢迪氏、気象庁で現業初期から参画された新田尚氏、1970-80年代に現業に参画されその前後にわたって数値予報に関心をもってこられた二宮洗三氏に、それぞれ論じていただくことにしました。なお、新田氏の報告は書面での発表を紹介する形で行います。

本会合は気象学史研究に関心を持つ、より多くの方の間の情報・意見交換をうながすため、学会員以外の方にも広く参加を呼びかけて開催いたします。

プログラム：

「日本での初期の数値天気予報」（書面参加）

新田 尚（元 気象庁）

「日本における初期の数値予報の発展とその問題点」
二宮 洗三（元 気象庁）

「電子計算機以前 -- 日本における数値予報研究の始まり」
有賀 暢迪（国立科学博物館）

コンビーナー・司会：増田耕一（首都大学東京）

連絡先：山本 哲（気象研究所）

TEL 029-853-8615 FAX 029-855-7240

メールでのお問い合わせは気象学史研究連絡会ウェブサイトのお問い合わせフォームをご利用ください。

<https://sites.google.com/site/meteorolhistoryjip/>

極域・寒冷域研究連絡会

日時：2018年5月16日（水）（大会第1日）18:00～20:00

場所：中会議室 202（D会場）

テーマ：「北極域の雲微物理過程の追究に向けて」

趣旨：北極域の上空では、水雲、氷雲、あるいはその両者の混在した雲（混相雲）が、年間を通して頻繁に発生し、北極域の気候や天候に大きな影響を及ぼします。しかしながら、現状の雲解像モデルの中では、北極域の雲微物理過程を必ずしもうまく表現しきれておらず、その大きな理由の1つとして、雲微物理に関する観測事実（水雲／氷雲の判別、雲粒の数濃度や粒径分布などの情報）が非常に不足していることが挙げられます。そこで、今回の研究会では、ユニークな雲粒子ゾンデや人工衛星などを用いた研究に

取り組んでいる研究者を招き、雲微物理に関する観測技術とその応用例について紹介していただきます。さらに、これらの観測技術を北極域で活用する上での可能性や課題などについても議論したいと思います。また、極域気候モデルの現状や将来の展望についても、専門家を招いて解説していただきます。学会参加者からの話題提供も期待しておりますので、ご希望の方は下記連絡担当者またはお近くの当研究連絡会の世話人にお声掛けください。

プログラム：

1. 趣旨説明
2. 「明星電気の雲粒子（CPS）ゾンデの紹介」 杉立卓治（明星電気）
3. 「赤道域における特殊ゾンデ観測の紹介と北極域研究への応用」 稲飯洋一（東北大学）
4. 「アクティブセンサ搭載衛星観測による北極域雲の物理特性研究」 岡本 創（九州大学）
5. 「極域気候モデルNHM-SMAPの現状と将来展望」 庭野 匡思（気象研究所）

問い合わせ先：當房 豊（国立極地研究所）

E-mail: tobo.yutaka@nipr.ac.jp

雲・降水研究会

日時：2018年5月17日（木）（大会第2日）12:30～13:30

場所：会議室 401

テーマ：「降水粒子観測」

趣旨：雲・降水粒子の粒径・形状・密度等の物理特性は、大気の水・熱循環に深く関与するとともに、リモートセンシングによる地球環境監視のほか、防災的観点からも重要な要素です。その性状や動態を捉えるために、直接観測・遠隔観測を含め様々な手法で観測が行われています。

本研究会では雲・降水粒子の直接観測に焦点をあて、長年ビデオゾンデ観測をされてきた鈴木賢士氏（山口大）と、降雪粒子の地上観測をされてきた本吉弘岐氏（防災科研）からお話しいただくとともに、観測で捉えられた粒子の物理特性やその応用、今後の連携や研究ビジョンに関する視点も含め議論します。

プログラム：

1. 趣旨説明
2. 「地上降雪粒子観測から得られる情報 - 降雪と積雪の橋渡し -」 本吉弘岐（防災科研）
3. 「雲内降水粒子直接観測のこれまでとこれから」 鈴木賢士（山口大）

連絡先：橋本明弘（気象研究所）

E-mail: ahashimo@mri-jma.go.jp

リクルートブースの設置について

ポスター発表が行われる場所に隣接して、会場内にリクルートブースを設ける予定です。これは、民間企業から適職に出会うための機会を提供して頂き、気象学会に所属する大学院生や有期雇用研究者との間での情報交換を通じて、彼らのキャリア形成をサポートすることが目的です。参加予約手続きは不要です。ブースでは、ポスター発表時間お

よび昼休みをコアタイムとして、企業担当者が対応します。

リクルートブースに出展予定の企業は以下の通りです（2018年3月14日現在）。

*の企業は5月16日（水）と17日（木）、それ以外の企業は18日（金）と19日（土）の開設を予定しています。

いであ株式会社*
英弘精機株式会社*
オフィス気象キャスター株式会社
株式会社気象工学研究所*
気象情報通信株式会社

日本海洋事業株式会社*
日本気象株式会社*
一般財団法人日本気象協会*
(五十音順)

2018 年度秋季大会の予告

2018 年度秋季大会は、2018 年 10 月 29 日（月）～11 月 1 日（木）に仙台国際センターで開催される予定です。大会告示は「天気」5 月号に掲載予定です。なお、秋季大会の講演申し込み締め切りは 2018 年 7 月頃となる予定です。